The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	シンポジウム : 遺跡資料リポジトリ -遺跡調査報告書の電子化と利用促進のために-
Author(s)	禰冝田, 佳男; 福永, 伸哉; 村上, 祐子 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/14058
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

シンポジウム：遺跡資料リポジトリ

ー遺跡調査報告書の電子化と利用促進のためにー

日　時：　平成 21 年 11 月 27 日（金）　13:00-17:30

会　場：　大阪大学附属図書館　総合図書館ホール

主　催：　国立情報学研究所 CSI 委託事業(領域 2)遺跡資料リポジトリ・プロジェクト WG

後　援：　デジタルリポジトリ連合（Digital Repository Federation: DRF）

趣　　旨

国内で発行される遺跡調査報告書は，考古学・歴史学分野におけるきわめて重要な基本資料であるが，発行部数も限られており，教育・研究や学術調査活動のために十分に利用できる体制にあるとは言いがたい。遺跡資料リポジトリプロジェクトはこれらの報告書全文を電子化しWeb 上で公開することを目標とするもので，「報告書抄録」の項目をリポジトリ仕様（OAI-PMH）のメタデータに使用し、これに電子版の報告書をリンクさせることで，多様で柔軟性をもつ汎用的な提供の仕組みを構築する。

本シンポジウムでは，様々なステークホルダーからの講演や事例報告等に基づき，冊子体と電子メディアが相互補完的に機能し，貴重な文化遺産及び文化財に関する情報が Web を通じて広く公開・提供され，教育・研究・調査活動や一般社会で広く利用される環境構築について考える。

ご　挨　　拶

「シンポジウム：遺跡資料リポジトリ」の開催にあたり、プロジェクトを代表として一言ご挨拶申し上げます。

本プロジェクトが対象としています遺跡資料（遺跡調査報告書）は、我が国における国民共通の文化遺産の記録として、また大学・研究機関にあっては調査・研究のための学術情報資源として、極めて価値のあるものです。

近年、大学・研究機関等では、国立情報学研究所との共同事業である「次世代学術コンテンツの基盤構築事業」により、教育研究活動の成果である学術情報の収集、組織化、保存及び発信を目的として、「機関リポジトリ」による学術情報流通の整備事業が進行しています。

「遺跡資料リポジトリ」プロジェクトは、この機関リポジトリで主たる収集対象となっている学術情報（学術研究論文等）を遺跡資料に置き換え、これらの電子版調査報告書をリポジトリサーバに収録し、報告書抄録データとともにリポジトリ仕様（OAI-PMH）で提供することにより、考古・歴史分野における学術情報流通の基盤を形成しようとするものです。平成２０－２１年度国立情報学研究所の最先端学術情報基盤整備事業（ＣＳＩ）[第２期] 委託事業及び平成２１年度日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「データベース」などの支援を受け、広域事業として取り組みを行っています。

なお、プロジェクトの遂行にあたっては各地域の国立大学や自治体文化財担当部署、独立行政法人奈良文化財研究所ほか、多くの機関、団体、研究者の方々のご協力を頂いています。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

今回の「シンポジウム：遺跡資料リポジトリ」では、プロジェクトへの議論や理解が深まり、また課題解決に向けてのご意見やご協力を賜りつつ、全国的な展開・普及を推し進め、冊子調査報告書と共存しつつ、より多くの電子版調査報告書のコンテンツが収集・提供できるシステムへと発展する契機となることを期待しています。

平成２１年１１月２７日

平成 20-21 年度国立情報学研究所 CSI 委託事業（領域2）「遺跡資料リポジトリの構築」プロジェクト代表
平成 21 年度日本学術振興会 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「遺跡資料データベース」研究代表

島根大学附属図書館長　　平 川　正 人

プログラム

司会進行：　小花洋一　岡山大学学術情報部長

13:00–13:10　開会挨拶　小泉潤二　大阪大学附属図書館長

□講　演

13:10–13:40　基調講演　「発掘調査報告書をめぐる諸問題」　(p.　5)
　　禰冝田佳男　文化庁記念物課主任文化財調査官

13:40–14:00　講 演　「考古学の研究教育と発掘調査報告書」　(p.　6)
　　福永伸哉　大阪大学大学院文学研究科考古学研究室教授

14:00–14:20　講 演　「サブジェクト・リポジトリ：遺跡資料と地域連携」　(p. 10)
　　村上祐子　東北大学大学院理学研究科准教授

14:20–14:40　講 演　「遺跡抄録データの活用と資料公開」　(p. 12)
　　赤塚次郎　愛知県埋蔵文化財センター調査課長

---------- 休憩（10分） ----------

□事例報告

14:50–15:20　「遺跡資料リポジトリシステムの概要と登録の実際」　(p . 1 5)
　　福山栄作　島根大学附属図書館
　　「遺跡資料リポジトリの登録から公開まで」　(p.　18)
　　中井陽子　島根大学附属図書館

15:20–15:40　「高知県埋蔵文化財センターにおける PDFデータの公開」　(p.　21)
　　廣田佳久　(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査課長

＜平成 21年度プロジェクト事例報告＞　(p.　27–31)
15:40–15:50「茨城県遺跡資料リポジトリ状況報告」篠塚富士男　筑波大学附属図書館
15:50–16:00「遺跡資料リポジトリ構築に向けて：香川県域を回る」岩澤尚子　香川大学図書館
16:00–16:10「宮崎県遺跡資料リポジトリ」寸田五郎　宮崎大学附属図書館

16:10–16:30　デモンストレーション「歴史遺産とＧＩＳ」
　　小野　博　コンテンツ株式会社　(p.　32)

□共同討議

16:30–17:30　パネルディスカッション／全体討議
　　「遺跡資料リポジトリの普及・拡大のために」　(p.　33)
　　司会進行：吉光紀行　山口大学情報環境部情報推進課長
　　パネリスト：禰冝田佳男，福永伸哉，村上祐子，森本晋(奈良文化財研究所)
　　赤塚次郎，福山栄作

17:30　閉会挨拶　細戸康治　大阪大学附属図書館事務部長

17:30–18:00　休憩・移動
18:00–19:20　情報交換会

＜資料編＞　----------　(p.　34–50)

講　　演

１．基調講演「**発掘調査報告書をめぐる諸問題**」

　　禰宜田 佳男　（文化庁記念物課主任文化財調査官）

２．講　演「**考古学の研究教育と発掘調査報告書**」

　　福永　伸哉　（大阪大学大学院文学研究科考古学研究室教授）

３．講　演「**サブジェクト・リポジトリ：遺跡資料と地域連携**」

　　村上　祐子　（東北大学大学院理学研究科准教授）

４．講　演「**遺跡抄録データの活用と資料公開**」

　　赤塚　次郎　（愛知県埋蔵文化財センター調査課長）

発掘調査報告書をめぐる諸問題

禰冝田佳男（文化庁記念物課）

１　埋蔵文化財とは？

①定義

・土地に埋蔵された文化財（≒遺跡）。

②意義

・わが国の歴史と文化の内容を明らかにすることのできる国民共有の財産。

・地域づくり、ひとづくりにも寄与する、歴史的、地域的資産。

２　埋蔵文化財保護行政における発掘調査の意義

①埋蔵文化財保護行政の構造

ａ　遺跡の把握・周知

ｂ　遺跡の保存のための調整

ｃ　遺跡の調査（現状保存目的の調査、遺跡の記録を残す目的の調査）

ｄ　遺跡の活用

→埋蔵文化財保護行政はａからｄへの流れがあり、各段階で発掘調査が行われる。

②意義

・発掘調査は、埋蔵文化財保護行政において、もっとも基礎的かつ重要な行政措置。

３　発掘調査報告書とは？

①内容

・埋蔵文化財の保護措置を講じた行政措置の記録。

・発掘調査の内容をまとめた学術的な内容の記録。

②性格

・消滅した埋蔵文化財にかわるもの。

・永久に保存し活用していくことが求められる。

③対象

・発掘調査報告書の内容を理解できる人を対象に作成する。

・行政等に所属する埋蔵文化財関係の専門職員、大学等研究機関に所属する研究者、考古学等を専攻する学生。

４　発掘調査報告書の現状

①保存のための媒体

・印刷物として 300 部～500 部。

・現状では、長期間にわたって残すことのできる媒体である。

・失われた埋蔵文化財にかわるもので、消滅するようなことがあってはならない。

②発掘調査報告書の利用状況

・国民一般は発掘調査報告書の内容を理解することは難しい。

・全国の地方公共団体、大学等の研究機関、図書館等に置いて利用者がいつでも利用できる状況、環境にする。

・発掘調査報告書の内容を理解できる人が、その内容を国民に広く伝える。

５　発掘調査報告書に関する今後の課題

①発掘調査報告書のデジタル化の問題

・発掘調査報告書だけの問題ではなく、「デジタル技術」全体の問題。

・永久保存、長期保存するための媒体に何を選択するか。

・利便性ではなく確実な保存。

・コストの問題（発掘調査費用、保管スペース）。

②発掘調査報告書を後世に保存していく手法についての検討

考古学の研究教育と発掘調査報告書

福永伸哉（大阪大学文学研究科）

1　日本の発掘調査報告書の歴史

・徳川光圀の車塚（侍塚）古墳発掘調査　大金重貞『湯津神村車塚御修理』1692 年（元禄 5）

・E.S.モースの大森貝塚発掘調査　E.S. Morse, *Shell Mounds of Omori*, University of Tokyo, 1879

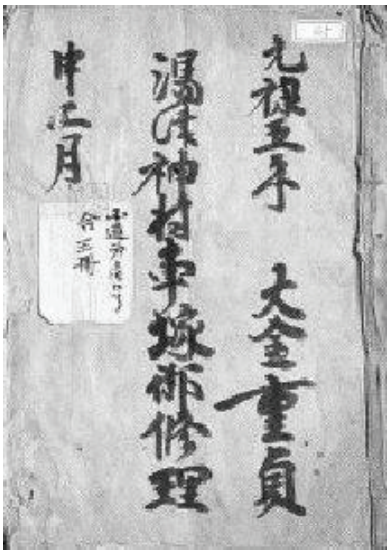
矢田部良吉訳『大森介墟古物編』東京大学、1879（明治 12）

・『史蹟勝地調査會報告』『史蹟名勝天然記念物調査報告書』大正～昭和

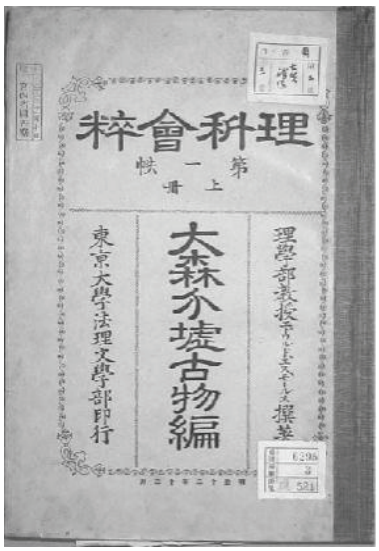
・『京都帝国大学文学部考古学研究報告』1917 ～ 1942

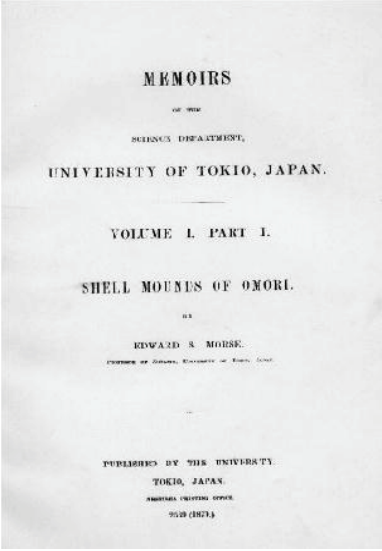
・『‥‥遺跡発掘調査報告書』1960 年代頃から

・年間数千冊のペースで発刊



侍塚「発掘調査報告書」（1692 年）





大森貝塚発掘調査報告書（1879 年）

2　考古学の研究教育と報告書

・考古学講座の開設→発掘調査報告書・学術雑誌・同人雑誌の収集量が講座の研究教育環境を左右

・報告書は原則非売品→図書交換による収集

・報告書の整理法　府県別、市町村別、遺跡別が普通。

・報告書の整理作業と収蔵スペースの問題

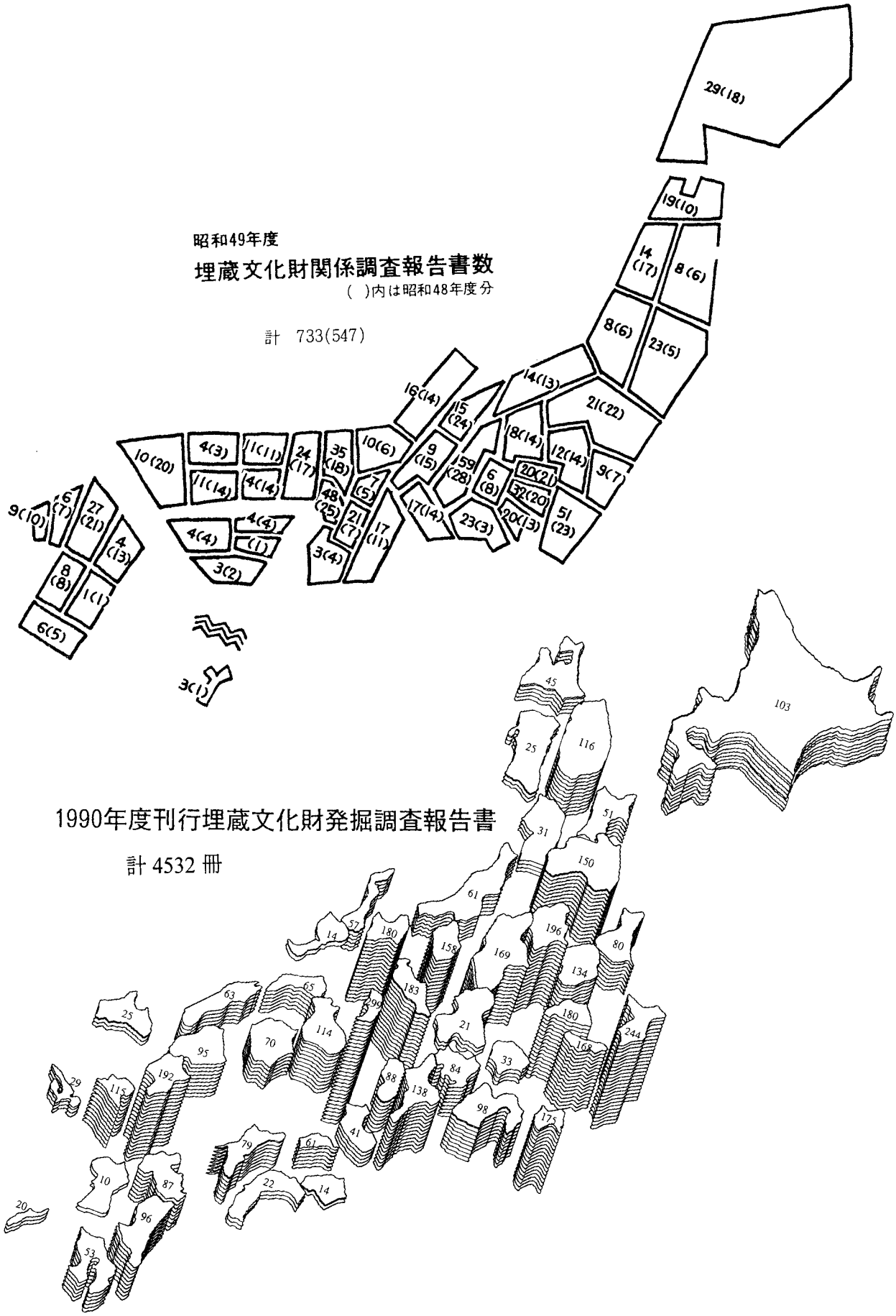
・卒論・修論研究の進め方　(1)研究史整理　(2)**報告書の悉皆検索**　(3)データベース作成

(4)資料分析　(5)資料の実地調査　(6)論文執筆　(7)図面作成

	種別		調査の目的・契機				合計
	試掘確認調査	本発掘調査	事前調査	自然崩壊	学術調査等	遺跡整備	
北海道	0	85	74	0	11	0	85
青森	89	51	135	1	3	1	140
岩手	52	110	159	0	2	1	162
宮城	245	62	305	0	2	0	307
秋田	17	29	46	0	0	0	46
山形	2	30	30	0	2	0	32
福島	3	18	13	0	0	8	21
茨城	0	93	89	1	3	0	93
栃木	85	42	123	1	2	1	127
群馬	500	119	613	0	5	1	619
埼玉	0	261	258	1	0	2	261
千葉	0	474	466	0	4	4	474
東京	671	253	921	0	2	1	924
神奈川	570	194	757	0	6	1	764
新潟	295	88	380	0	3	0	383
富山	20	41	60	1	0	0	61
石川	7	54	48	0	12	1	61
福井	0	23	17	0	5	1	23
山梨	159	13	172	0	0	0	172
長野	254	122	368	2	3	3	376
岐阜	8	15	20	0	1	2	23
静岡	230	64	286	0	5	3	294
愛知	149	85	224	0	4	6	234
三重	0	69	67	0	2	0	69
滋賀	472	170	634	0	2	6	642
京都	197	103	300	0	0	0	300
大阪	164	1,122	1,280	1	0	5	1,286
兵庫	2	75	68	2	5	2	77
奈良	27	132	145	5	8	1	159
和歌山	24	13	30	0	3	4	37
鳥取	45	13	56	1	1	0	58
島根	1	116	115	0	1	1	117
岡山	66	38	94	0	3	7	104
広島	10	48	56	0	2	0	58
山口	0	25	23	0	2	0	25
徳島	3	18	13	0	0	8	21
香川	14	10	10	0	12	2	24
愛媛	0	68	58	0	10	0	68
高知	0	14	13	0	1	0	14
福岡	1	263	256	3	1	4	264
佐賀	7	63	67	1	0	2	70
長崎	14	30	43	1	0	0	44
熊本	6	86	85	0	6	1	92
大分	6	38	39	0	1	4	44
宮崎	2	38	37	1	0	2	40
鹿児島	124	50	168	0	4	2	174
沖縄	17	30	42	1	4	0	47
合計	4,558	4,958	9,263	23	143	87	9,516
比率	47.9%	52.1%	97.3%	0.2%	1.5%	0.9%	

①2007年度（平成19年度）発掘届出数の概要

（文化庁資料、奈文研『文化財ニュース』No. 137、2009）



②遺跡調査報告書数の比較（奈文研『文化財ニュース』No.4、1976・No.82、1996）

大阪大学文学研究科考古学研究報告第４冊

勝福寺古墳の研究

2007年10月

大阪大学勝福寺古墳発掘調査団

報告書抄録

ふりがな	しょうふくじこふんのけんきゅう
書名	勝福寺古墳の研究
副書名	大阪大学文学研究科考古学研究報告
巻次	第４冊
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	寺前直人・福永伸哉
編集機関	大阪大学文学研究科考古学研究室
所在地	〒560-8532　大阪府豊中市待兼山町1-5　TEL06-6850-5106
発行年月日	2007年10月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査要因
勝福寺古墳（第２次）	兵庫県川西市火打２丁目393番地	28217	180015	34°50′05″	135°25′01″	20010721～20010816	25	墳丘崩落状況確認調査（市教委実施）
〃（第３次）						20010721～20010816	22	墳形等確認調査（大阪大学実施）
〃（第４次）						20020716～20020817	30	墳丘崩落状況確認調査（市教委実施）
〃（第５次）						20020716～20020817	35	墳形等確認調査（大阪大学実施）
〃（第６次）						20030722～20030814	23	墳丘崩落箇所確認調査（市教委実施）
〃（第７次）						20030722～20030815	16	墳形等確認調査（大阪大学実施）
〃（第８次）						20040303～20040412	20	保存目的遺構確認調査（市教委実施）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
勝福寺古墳（第２次）	古墳	古墳時代		須恵器	後円部縦断面確認
勝福寺古墳（第３次）	古墳	古墳時代	後円部周溝	埴輪・須恵器	後円部中位平坦面検出
勝福寺古墳（第４次）	古墳	古墳時代		埴輪	前方部墳丘裾確認
勝福寺古墳（第５次）	古墳	古墳時代		埴輪・須恵器	東くびれ部確認
勝福寺古墳（第６次）	古墳	古墳時代		管玉	
勝福寺古墳（第７次）	古墳	古墳時代		埴輪・須恵器	後円部石室羨道段状施設確認
勝福寺古墳（第８次）	古墳	古墳時代	第２横穴式石室	須恵器・土師器	新たに横穴式石室検出

第５章　出土遺物　171

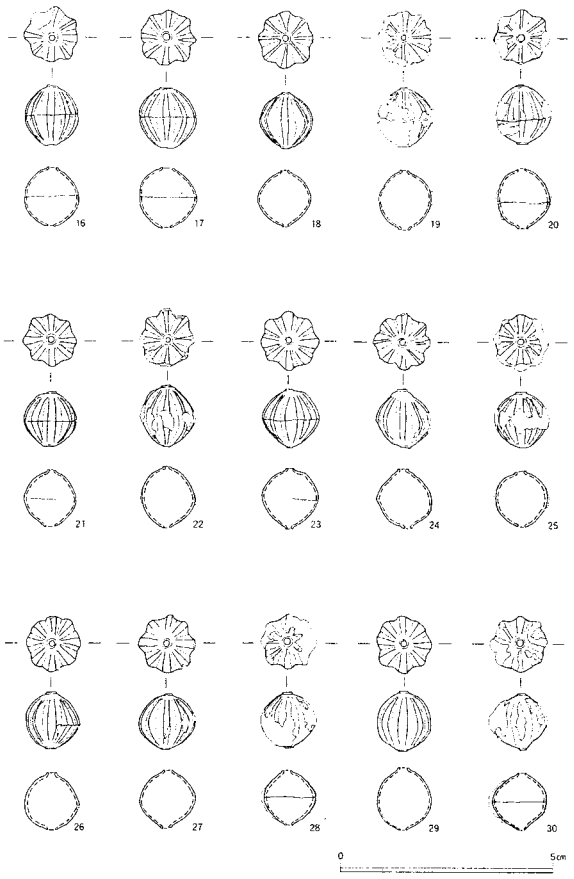
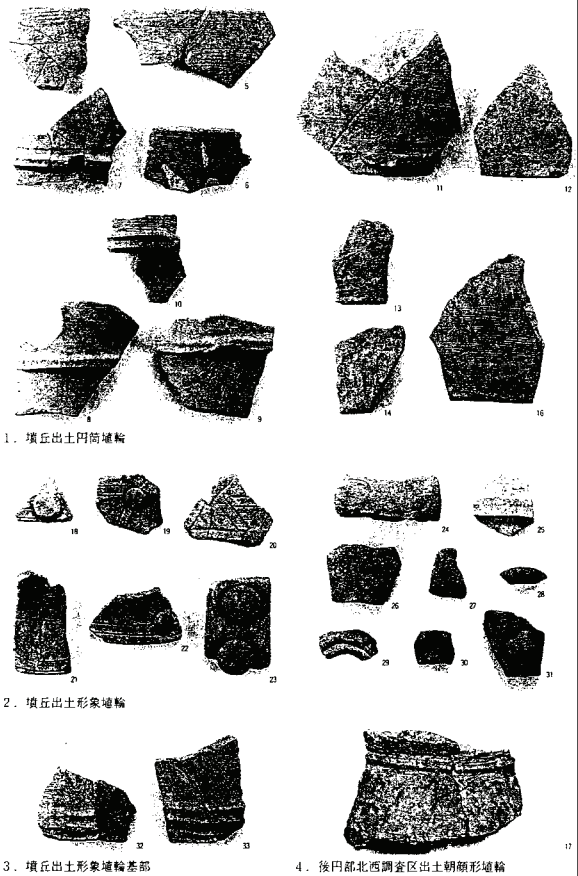


Fig 87　前方部南裾出土埴輪玉２

PL. 48

墳丘出土遺物



③発掘調査報告書の実例（大阪大学文学研究科、2007）

サブジェクト・リポジトリ
遺跡資料と地域連携

村上祐子
東北大学

サブジェクト・リポジトリ

- 研究分野ごとのデジタル資料が保存・公開されているサーバ
- 研究者によく知られており、利用も多い
- 数学・物理・経済学が著名
- 最近のリポジトリランキング上位20位までのうち、広義のサブジェクトリポジトリが8（機関リポジトリは11）

サブジェクトリポジトリの方向性

もちろん不可分
- 論文共有：メタデータの標準化
- データ共有（e-science）：メタデータ＋フォーマットの標準化

他の研究者の成果を再利用するためには、実験データの共有が必須という認識。

データリポジトリ

- サブジェクトリポジトリのうち、データを中心とするもの
- 考古学
  - Archaeology Data Service.
  - Open Context. (Alexandria Archive Institute).

学際領域としての文系

- 研究手法の多様化：質的→量的
  - 測定技術の導入・進歩：衛星・同位体…
  - 分析手法の拡大
- 一回性：発掘・演奏… 記録資料が重要
  - e-サイエンスのアプローチ
  - 継続と蓄積の力
- 論文の性質：実験のような再現可能性のための論文だけではない。論文そのものが表現のことも。

問題点

- 「デジタルデバイド」
  - 研究手法、地域格差…
- 言語・フォーマットの違い
  - 共通化困難

Laten American Knowledge Harvester

- ラテンアメリカ関連資料
- サーバに直接保存するものではなく、他のリポジトリに分散している当該分野の資料をハーベストして、**英訳して**提供

- 世界リポジトリランキング総合223位、Scholar項目7位（＝新しい論文が多く入っている）

Social Science Research Network

- 各分野のアブストラクト・ワーキングペーパーを発信
- 無料登録制

考古学サブジェクトリポジトリ

リンク先

自治体との連携

- 国立学校と公立学校は、学校教育上支障がないと認める限り、学校の施設を社会教育のために利用に供するように努めなければならないとされる（社会教育法第44条第1項）。

自治体の方へ

- ホームページからのリンク
  - 地域アイデンティティ
  - 教育利用
  - 文化保存
  - 観光との協同

遺跡抄録データの活用と資料公開

愛知県埋蔵文化財センター　赤塚次郎

■遺跡抄録データの活用について

抄録データは報告書メタデータとして，ある程度の標準化されたテキストデータであり，刊行書物としての「報告書 PDF」だけではなく，遺跡調査現場資料から各種関連研究レポート類を含めて，多様な検索内容を可能にする。

現在の使用のデータベース

・報告書抄録・画像・年報 PDF・研究紀要 PDF

検索（遺跡名・内容・・・）
詳細検索（遺跡の検索画面）

遺跡名・所在地・写真（報告書掲載画像）
抄録データへの Link

朝日遺跡

遺跡の位置（G マップ表示）

掲載写真

○ 1482 件登録　アルバムへ

写真（報告書掲載画像を中心にして）

関連する年報PDF　4件

○朝日遺跡

[愛知県埋蔵文化財センター　年報 平成11年度]（2000）28-31p PDF: 1.32M

○朝日遺跡

[愛知県埋蔵文化財センター　年報 平成13年度]（2002）50-53p PDF: 6.65M

○朝日遺跡

[愛知県埋蔵文化財センター　年報 平成14年度]（2003）38-47p PDF: 2.34M

○朝日遺跡

[愛知県埋蔵文化財センター　年報 平成15年度]（2004）14-15p PDF: 1.05M

関連する年報データ（PDF・ダウンロード）

関連する紀要PDF　3件

●尾張低地部における小規模古墳の様相

[愛知県埋蔵文化財センター　研究紀要 3]（2002）57-67p
著者：宮腰健司　PDF: 594K

●朝日遺跡出土の魚類遺存体

[愛知県埋蔵文化財センター　研究紀要 6]（2005）34-45p
著者：山崎健・宮腰健司　PDF: 1.6M

●弥生時代および古墳時代のガラス玉の化学組成

[愛知県埋蔵文化財センター　研究紀要 7]（2006）144-150p
著者：堀木真美子　PDF: 1.5M

研究紀要データ（検索遺跡に関連するレポート）PDF・ダウンロード

報告書

シリーズ名：愛知県埋蔵文化財センター　発掘調査報告書　第138集

書名：朝日遺跡　7
（あさひいせきなな）

副書名：

編著者名：藤山誠一、橋上昇、赤塚次郎、川添和暁、堀木真美子、鬼頭剛、山崎健、

発行年月日：2007年03月31日

遺跡名：朝日遺跡（あさひいせき）

所在地：愛知県清須市名古屋市西区、西春日井郡春日町

コード：市町村コード：21　遺跡コード：21002

位置：北緯　35度13分16秒
東経　136度51分14秒

調査原因：近畿自動車道名古屋関線J清洲JC高速清洲一宮線建設

調査期間と面積：1998年12月～2004年03月 (11032平米)

時代	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
弥生+古墳	環濠、竪穴住居、掘立柱建物、方形周溝墓 溝、水田、溝、土坑、旧河道など	弥生土器、土師器、石器、木器、青銅器、鉄器、ガラス小玉、骨角器など		弥生時代から古墳時代前期の環濠集落,棒状鹿角製品,キ龍文鏡?r?n巴形銅器,有肩袋状鉄斧,木製精製鉢,動物遺存体
平安+中世細分不明+安土桃山+江戸	旧河道、方形土坑、水田、用水路など	山茶椀、小皿、瀬戸・美濃産陶磁器木器		

抄録データ

○要約
今回の調査で確認された遺構や遺物を9期に大別した。これまでの調査により明らかにされている弥生時代から古墳時代前期の集落遺構の多くを追認した。?r?n　新たな成果としては、朝日遺跡の南北の周囲に水田遺構等の生産域が展開すること、南北の居住域内部の遺物包含層中における遺構の変遷、北居住域の環濠の廻り方、木器製作地のあり方、朝日遺跡の微地形と遺構の占地の関係などが明らかになった。?r?n　出土遺物においては多量の遺物の出土情報を記録できた。遺物の分析では木器や未成品・加工材等から見た木材利用、剥片石器と石器製作残材から見たの剥片石器の製作、磨製石斧の使用と廃棄、骨角製品と骨角未成品・動物遺存体から見た動物利用、有肩袋状鉄斧の製作技法の解明とその東アジア的位置付け、弥生時代の石棒の形態変遷などを明らかにできた。PDFファイル有り。URL:http://www.maibun.com

遺跡の位置へ

遺跡の位置へ

事 例 報 告

1. 遺跡資料リポジトリシステムの概要と登録の実際

福山 栄作（島根大学附属図書館）

2. 遺跡資料リポジトリの登録から公開まで

中井 陽子（島根大学附属図書館）

3. 高知県埋蔵文化財センターにおけるPDFデータの公開

－DTP におけるPDF データの活用－

廣田 佳久（(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター調査課長）

4. 平成21年度遺跡資料リポジトリ・プロジェクト事例報告

（1） 茨城県遺跡資料リポジトリ状況報告

篠塚 富士男（筑波大学附属図書館）

（2） 遺跡資料リポジトリ構築に向けて：香川県域を回る

岩澤 尚子（香川大学図書館）

（3） 宮崎県遺跡資料リポジトリ

寸田 五郎（宮崎大学附属図書館）

5. 歴史遺産とGIS

小野 博（コンテンツ株式会社）

遺跡資料リポジトリシステムの概要と登録の実際

2009/11/27

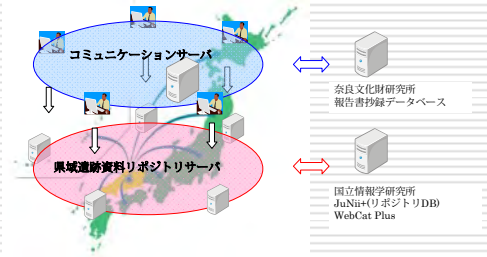
島根大学学術国際部図書情報課
福山　栄作

遺跡資料リポジトリとは

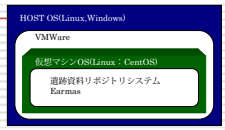
全国各地で発掘・調査され、調査報告書として刊行される**遺跡調査報告書**は、考古・歴史分野における重要な研究・教育・調査活動における不可欠の資料として、また、我が国の貴重な文化遺産の記録として極めて重要な資料群です。しかしながら，これらの資料は少部数発行の印刷資料であり、寄贈等で流通範囲も限られることから一般には利用しにくい資料となっています。

“遺跡資料リポジトリ”プロジェクトは、電子調査報告書をリポジトリサーバにアーカイブし、報告書抄録データをもとにリポジトリ仕様（**OAI-PMH**）で公開するものです。本プロジェクトは、自治体文化財担当部署と国立大学法人との連携・協力体制により各地域単位でリポジトリを**分散構築**し、これらの成果物をリポジトリのハーベスト機能や多様な利用システムにより、**遺跡資料調査報告書の利活用を促進**することを目的としています。

全体イメージ



システム構成



- VMWare
  - ホストOS:Linux,Windows
  - クライアントOS:Linux(CentOS)
  - サーバの仮想化→複数環境の共存
  - クライアントはファイルイメージ→バックアップ，再設定
- Earmas
  - 国産リポジトリシステム
  - 遺跡固有情報管理機能
  - 他システム連携のカスタマイズ

コミュニケーションサーバ

メタデータ

- 書誌メタデータ
  - 書名ふりがな,書名,副書名,巻次,シリーズ名,シリーズ番号,編・著者名,編集機関,発行機関,発行年月日,作成機関ID,郵便番号,電話番号,住所
- 遺跡メタデータ
  - 遺跡名ふりがな,遺跡名,所在地ふりがな,遺跡所在地,市町村コード,遺跡番号,北緯(日本測地系),東経(日本測地系),北緯(世界測地系),東経(世界測地系),調査期間,調査面積,調査原因,種別,主な時代,遺跡概要,特記事項

データソース

	書　誌 メタデータ	遺　跡 メタデータ	連　携	登録方法
報告書抄録 データベース	△	○	GoogleMaps	一括
Webcat Plus	○	×	Webcat Plus	個別

GoogleMaps連携は、遺跡の位置情報が必要
Webcat Plus連携には、書誌メタデータにNCIDが必要

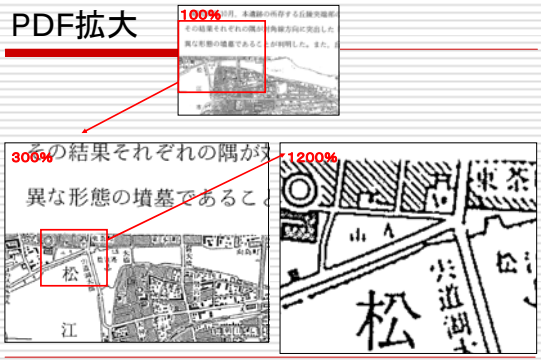
PDF仕様

OCR透過テキスト付PDF

	公開用	保存用	備考
2値	600dpi	600dpi	テキスト・図
グレー	300dpi	600dpi	モノクロ写真
カラー	300dpi	600dpi	カラー写真
圧縮率	高圧縮	低圧縮	2値:G3, 多値:jpeg
ファイル分割	約30MG	なし	

※ディスプレイ解像度:96dpi(Mac:72dpi)
G3:CCITT Group3,圧縮時データ損失無し

PDF拡大



検索方法

- 遺跡資料リポジトリ
  - 検索
    - 報告書検索
    - 報告書全文検索
    - 遺跡検索(GoogleMaps)
  - 一覧
    - 書名一覧,編著者名,地域区分…
- コミュニティ
  - 横断検索

報告書全文検索

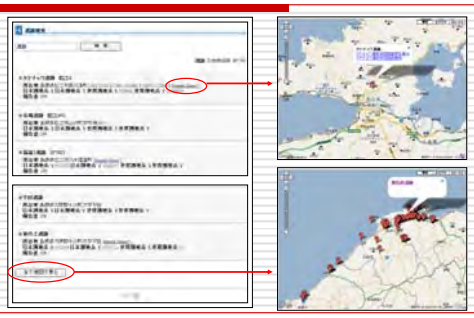
・登録PDF中のテキストから検索インデックスを生成

・検索語が使用されている前後の文章表示

・紙からスキャンしOCR処理したものは誤認識有り

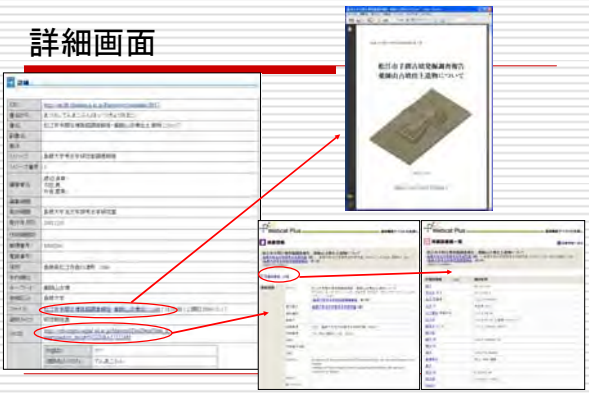
・印刷時にフォント埋め込みで作成されたデータでは高い精度が期待できる

遺跡検索



横断検索

詳細画面

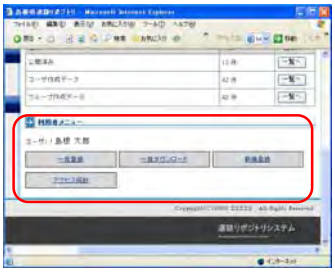


Google/Yahoo!

遺跡資料リポジトリの登録から公開まで

島根大学学術国際部図書情報課
中井陽子

利用者メニュー



【一括登録】
メタデータの一括登録を行います。

【一括ダウンロード】
登録済みのメタデータを奈良文化財研究所提出用の形式でダウンロードできます。

【新規登録】
報告書データの新規登録を行います。Nacsis Webcatからの流用登録も行うことができます。

【アクセス統計】
公開中のデータのアクセス数、ダウンロード数、キーワード検索の件数を見ることが出来ます。
（付録2参照）

管理者メニュー

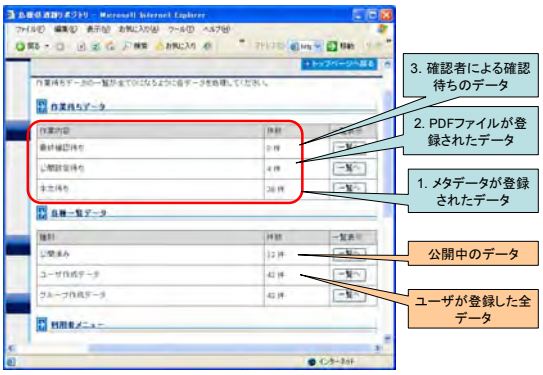
【一括処理】
登録したメタデータの一括修正を行います。

【PDF一括登録】
PDFファイルの一括登録を行います。

【遺跡管理】
登録した遺跡情報の重複検索とその結果について修正・削除を行います。

【代行ユーザー変更】
管理者はユーザー情報を変更し、他のユーザーとして作業を行うことが出来ます。

作業待ちデータ



登録から公開までの流れ

1. メタデータの登録（個別/一括）
2. 報告書PDFファイルの登録（個別/一括）
3. 公開者・確認者によるデータの公開（個別/一括）

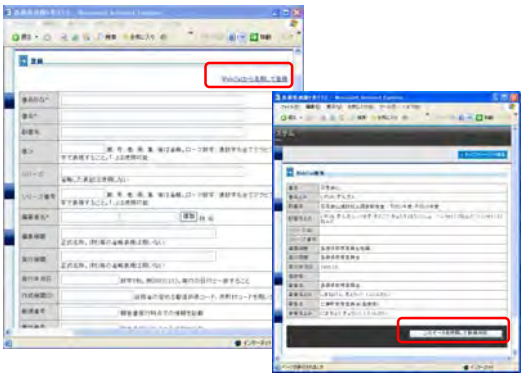
1. メタデータの登録

パターン1
Nacsis Webcatの書誌情報をメタデータとして利用（個別登録）

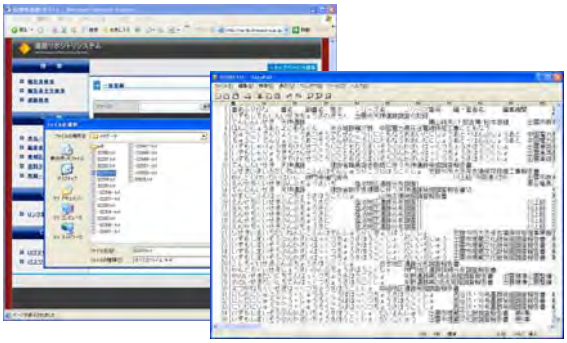
パターン2
奈良文化財研究所提出データをメタデータとして利用（一括登録）

＊奈文研提出データが無い場合も、同フォーマットを使用して書誌情報と遺跡名（*必須）のみによる一括登録も可能です。（付録1参照）

パターン1　Nacsis Webcatから流用登録



パターン2　奈文研提出データを一括登録



2. 報告書PDFの登録

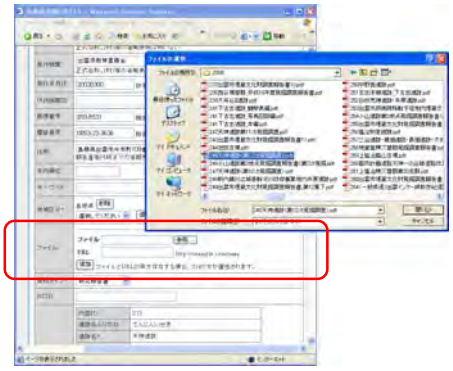
パターン1

詳細画面で1件ごとにファイルを追加して
PDFファイルを登録（個別登録）

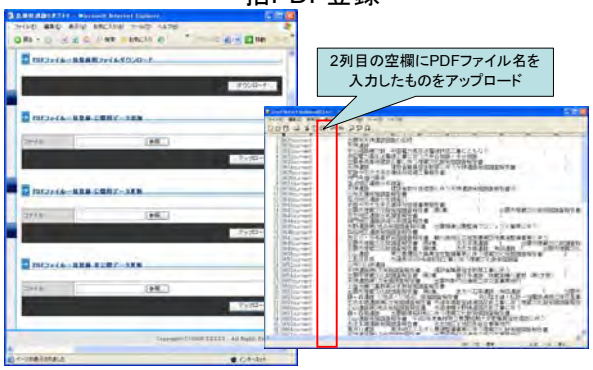
パターン2

データIDの入った専用ファイルをダウンロード
してPDFファイルを登録（一括登録）

パターン1　詳細画面から個別にPDF登録



パターン2　専用ファイルをダウンロードして
一括PDF登録



3. 公開者・確認者によるデータの公開

パターン1

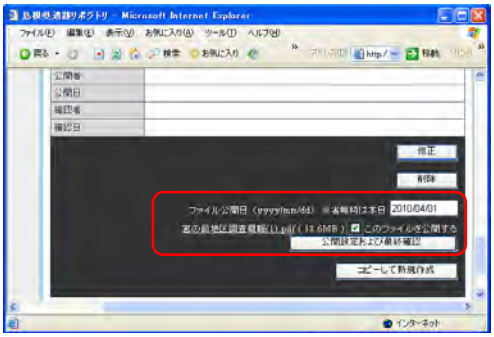
詳細画面から1件ごとに「公開設定および
最終確認」ボタンを押して個別に公開

パターン2

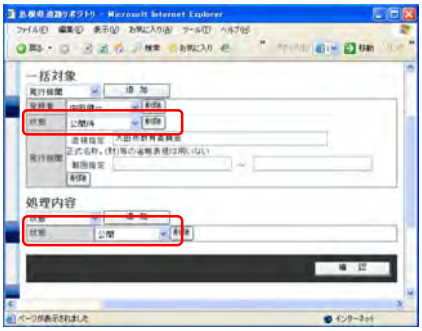
一括処理の機能を使ってデータの状態を
「公開待」「確認待」から「公開」に変更

＊メタデータ項目によって十分に絞込みを行った結果に対し、一括処理を行う
事が可能です。

パターン1　詳細画面からの公開



パターン2　一括処理で状態を公開に変更



付録1　メタデータ一括登録用データ項目一覧

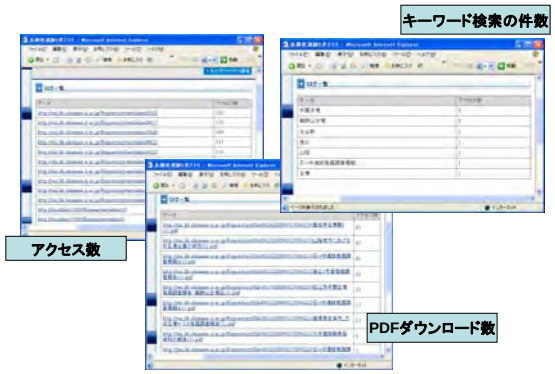
（書誌情報）

	項目	必須
1	書名ふりがな	○
2	書名	○
3	副書名	
4	巻次	
5	シリーズ名	
6	シリーズ番号	
7	編著者名	
8	編集機関	
9	発行機関	
10	発行年月日	
11	作成機関ID	
12	郵便番号	
13	電話番号	
14	住所	
15	本内順位	

（遺跡情報）

	項目	必須
16	遺跡名ふりがな	○
17	遺跡名	○
18	所在地ふりがな	
19	遺跡所在地	
20	市町村コード	
21	遺跡番号	
22	北緯（日本測地系）	
23	東経（日本測地系）	
24	北緯（世界測地系）	
25	東経（世界測地系）	
26	調査期間	
27	調査面積	
28	調査原因	
29	種別	
30	主な時代	
31	遺跡概要	
32	特記事項	

付録2　アクセス統計



遺跡情報リポジトリシンポジウム発表資料
2009.11.27 大阪大学付属図書館 総合図書館ホール

高知県埋蔵文化財センターにおけるPDFデータの公開
－DTPにおけるPDFデータの活用－

㈶高知県文化財団埋蔵文化財センター
廣田 佳久

1. はじめに

(1) なぜ高知県から

(2) 本来の目的

報告書を始めとした印刷物のFull DTP化

＊ハード・OS・ソフト進歩

＊フォント環境の改善

＊デジタルカメラの進歩

＊インフラの整備

(3) 副産物としてのPDFデータ

(4) Web公開サイト

① 高知県埋蔵文化財センターのホームページ

② 埋蔵文化財情報管理システム

図1　フォント環境の改善

図2　高知県埋文ホームページ

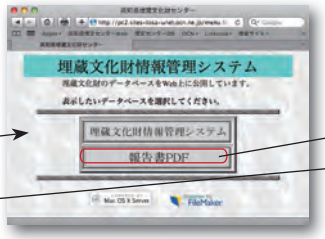


図3　Web公開DB

図4　報告書PDF

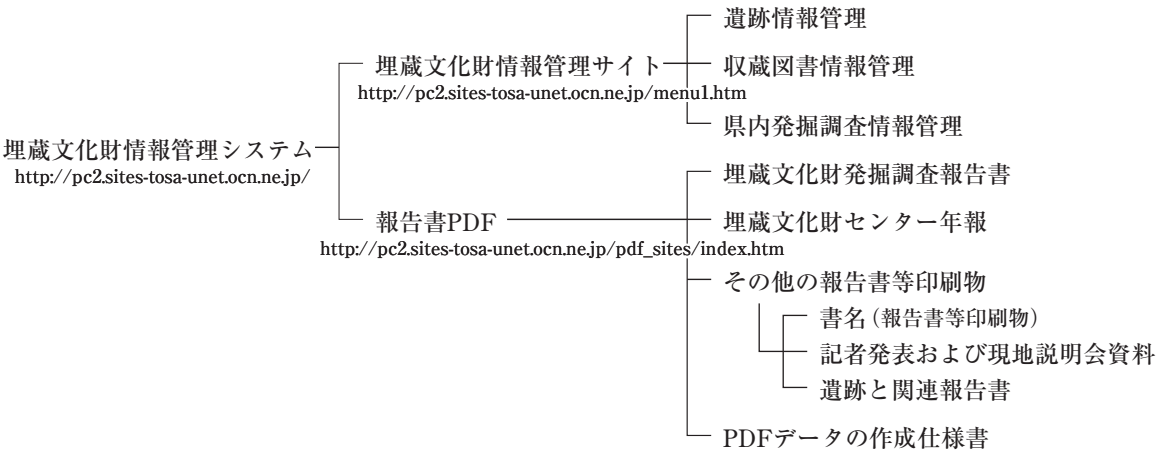


図5　埋蔵文化財情報管理システムの構成

2. コンピュータの導入からDTPへの取り組み

(1) 写植印刷からDTPへ

1993年(平成5年)Macintosh，PSプリンタ・QuarkXPressの導入

(2) 作業の効率化と高い精度

(3) 問題点として

① フォント環境

プリンタフォントと外字

② インフラの未整備

図6　QuarkXPress3.3

3. フォント環境の改善とインフラの整備

(1) OCF→CID→New-CIDからOTFへ(MacOSXがOTFを搭載)

プリンタフォントを必要としなくなった

(2) 外字問題の解消

Adobe-Japan 1-5 準拠(20,317字)

簡単に外字を作成・登録可能

(3) PDFへの埋め込みが容易に

(4) インフラの整備と36回以上の研修

整理作業員2名に1台

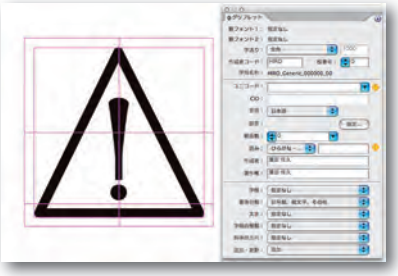


図7　Illustratorのグリフレット

4. 報告書のPDF化

(1) Full DTPからの書き出し

① デジタルトレース

② デジタル写真

③ InDesignでの編集そして書き出し

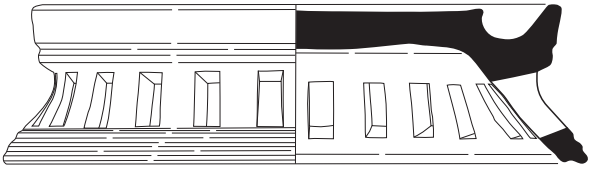


図8　Illustratorによるデジタルトレース(円面硯)

図9　有影写真(弥生土器 壺)

図10　無影写真(土偶)

表1　Full DTPデータの書き出し解像度

データ種類	再版可能なPDF	Web公開用PDF
文字	サブセットで埋め込み	サブセットで埋め込み
線画	圧縮なし	300dpi
白黒写真	圧縮なし	150ppi
カラー写真	圧縮なし	150ppi

(2) デジタル化以前の報告書のPDF化

① データの種類に応じたスキャニング

② OCRでのテキストの読み込みと校正

③ InDesignでの編集そして書き出し

表2　DTP以前のデータの書き出し解像度

データ種類	再版可能なPDF	Web公開用PDF
背景の文字	サブセットで埋め込み	サブセットで埋め込み
文字・線画	600dpi	150dpi
白黒写真	350ppi	150ppi
カラー写真	400ppi	150ppi

5. 埋蔵文化財情報管理システムの構築

(1) 遺跡台帳のデータベース化（遺跡情報管理）

(2) 収蔵図書のデータベース化（収蔵図書情報管理）

(3) 県内の報告書の「報告書抄録」の作成とデータベース化（県内発掘調査調査情報管理）

資料数万点データベース化

県埋文センター　来春　一般に情報提供

県内の遺跡の発掘・調査を手がける「県埋蔵文化財センター」（南国市篠原）が、数万点にのぼる膨大な研究資料や写真、地図などを百枚のコンパクトディスクに収め、目的の情報を簡単に引き出せるシステム作りに取り組んでいる。来年二月までに整備し、電話回線を通じて個人や学校のパソコンでもデータを見られるようにしたいという。

同センターは財団法人県文化財団に属し、県内に二千四百か所ある遺跡を調べ台帳を作っている。地図と写真だけで一万点以上に達し、調査報告書や発掘された埋蔵物の記録など保管資料は増え続ける一方。三年前から暫定的にデータを光ディスクに移す作業を進めていた。

今年度、郵政省からお年玉付き年賀はがき・切手の寄付金から六百八十万円の配分が決まったため、総額八百五十万円をかけて本格的なデータベースを構築することになった。土佐市、中村市にある同センター事務所からの検索のほか、一般向けにもデータの提供を検討している。

データはコンパクトディスクに収め、リストを見て必要な資料を素早く探せる。写真の記録は高い解像度が求められるため、より多くの情報を入れられるデジタルビデオディスク（DVD）の導入も考えている。

同センターの広田佳久・調査第四班長は「掘るばかりでなく調査結果を記録・整理するのもわれわれの大事な仕事。多くの人が研究成果を活用できるシステムを作りたい」と話している。

図11　情報管理システムの記者発表1998年（平成10年）5月13日読売新聞

(4) 平成10年度郵政省からの寄付金でサーバを導入

(5) 問題点

① インターネット回線の速度

② サーバがUNIX未対応

6. 公開サーバの導入とPDFデータのWeb公開

(1) 大規模発掘調査に伴って2004年公開サーバの導入

(2) サーバのUNIX化

(3) 報告書PDFの公開

① 埋蔵文化財発掘調査報告書

② 高知県埋蔵文化財センター年報

③ その他の報告書等印刷物

④ PDFデータの作成仕様書

(4) 埋蔵文化財情報管理システムの移植

遺跡情報管理システムからのアクセス

図12　埋蔵文化財発掘調査報告書サイト

7. 高知県埋蔵文化財センターのPDFデータ

利用者の便を考慮したPDFデータを掲載

(1) データサイズは約10MB以下に

(2) 章を基準に分割し，必要な箇所のみダウンロード可能に

(3) テキスト背景に埋め込み，忠実に検索可能

(DTP以前のデータPDFデータについて)

(4)「しおり」も細かく設定

章・節・項・図版の写真など

図14　その他の報告書等印刷物サイト

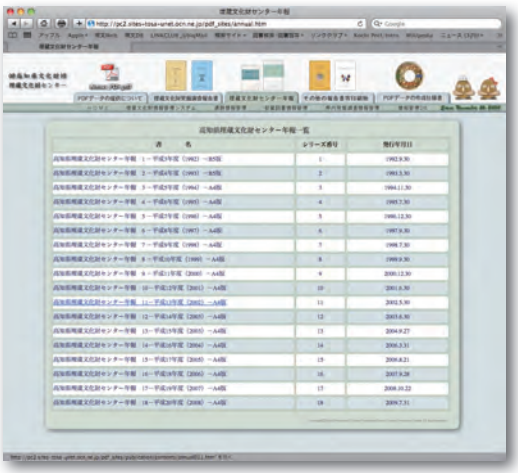


図13　高知県埋蔵文化財センター年報サイト

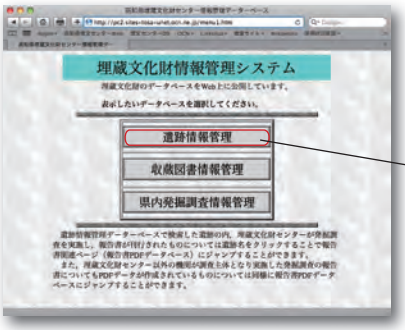


図15　遺跡情報管理システムサイト

図17　遺跡情報管理検索結果画面

報告書が刊行されている場合は，遺跡名をクリックすることで遺跡概要(図19)または報告書ダウンロードページ(図20)にアクセスすることができる。

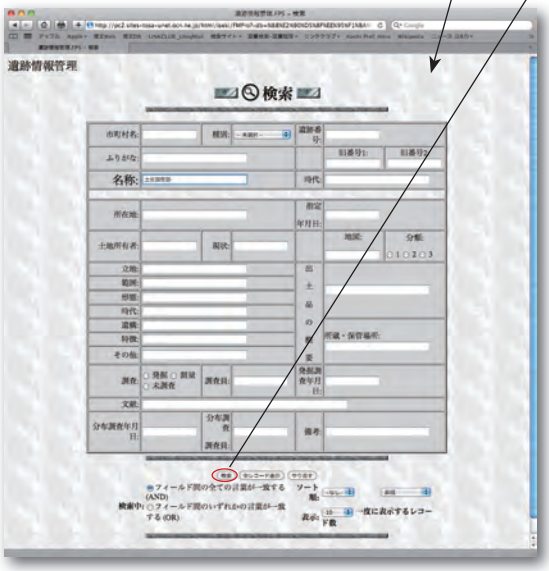


図16　遺跡情報管理検索画面

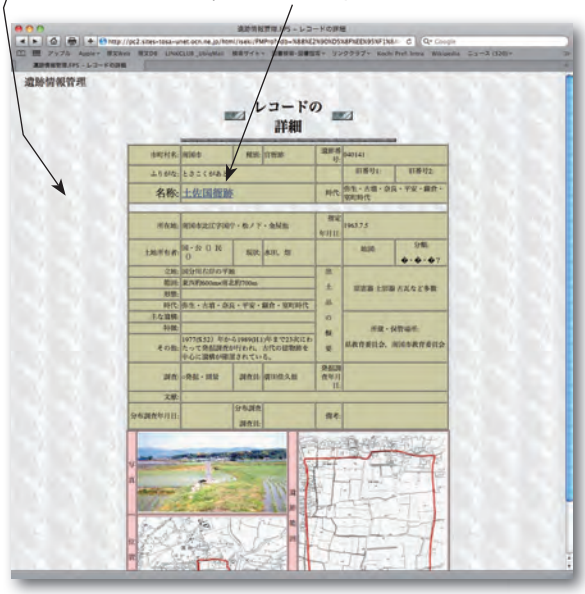


図18　検索結果の表示

図19　土佐国衙跡の概要と関連報告書

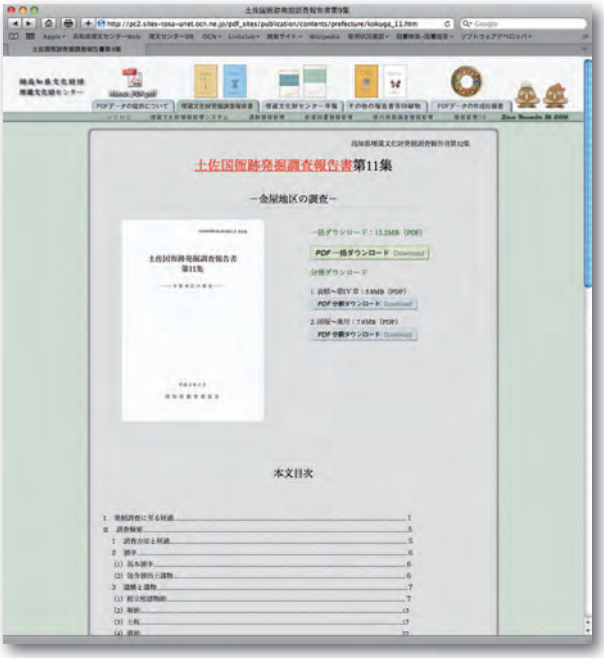


図20　土佐国衙跡発掘調査報告書ダウンロードページ

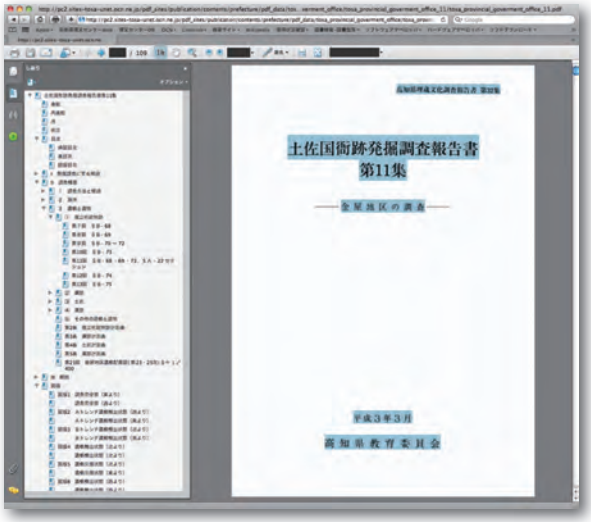


図21　DTP以前のPDFデータ（土佐国衙跡）

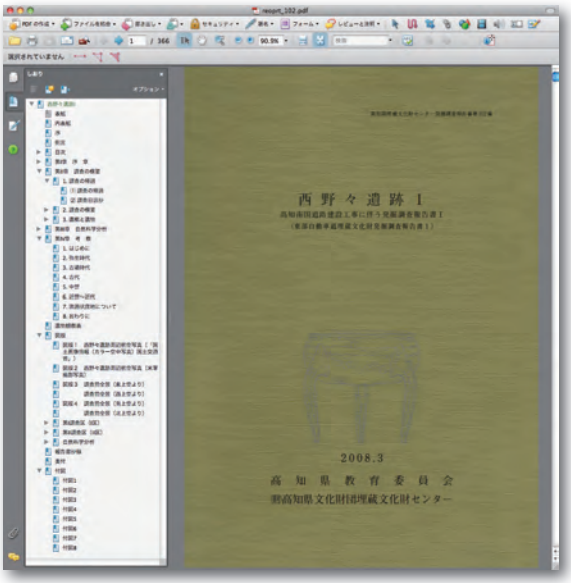


図22　DTP以後のPDFデータ（西野々遺跡Ⅰ）

高知新聞　2005年（平成17年）1月18日（火曜日）地域1　☆☆（22）

HPで県内出土品公開

報告書を順次電子化

県埋蔵文化財センター

県内で出土した遺跡資料が自宅のパソコンなどでいつでも気軽に閲覧できるシステムを、県埋蔵文化財センター（南国市篠原）がこのほど導入した。出土品のカラー写真を含む過去の発掘調査報告書などをホームページ（HP）で見ることができ、考古学への身近な案内役となりそう。

同センターは従来、県内の遺跡の全景写真や蔵書目録などをデータベース化し、発掘調査報告書の抄録と一緒にHPで紹介してきた。

しかし、抄録は出土品のごく簡単な紹介にとどまり、解説などはなし。遺跡の写真についても個々の出土品を撮影したものはほぼ皆無だった。

また、各号、三百―五百部が印刷される発掘調査報告書の実物は配布先が県内外の専門機関などに限られ、一般の人が調査報告書を見ようと思えば、同センターや図書館に直接、足を運ぶしかなかった。

こうしたことから、同センターは発行文献のPDF（簡易電子データ記録形式）化を検討。報告書の印刷業者に対し、十二年度からPDF形式での加工を依頼し、同年度以前の報告書など発行文献についても本年度から電子化作業を始めた。

電子化された文書は同センターのホームページの「情報管理DB・PDF」から検索可能で、十七日現在、全九十一集の発掘調査報告書のうち五十八集（約一万ページ、遺跡数で四十八カ所）が閲覧可能。各文献の表紙の下に目次が付いており、数十―数百ページに及ぶ報告書の中から希望の項目だけを簡単に印刷し、データとして保存することができる。

同センターは「文化財の情報や資料を自由にダウンロードしてもらうことで、より多くの県民に考古学への興味を持ってもらいたい。順調に行けば、十七年度中にセンターの発行した過去の文献もすべて電子化できる」としている。

同センターのHPはhttp://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~maibun

パソコンで気軽に閲覧、取得が可能になった県埋蔵文化財センターの発掘調査報告書の一部

図23　報告書PDFWeb公開の記者発表 2005年（平成17年）1月18日高知新聞

8. 今後の課題

(1) サーバ更新にかかる経費問題

(2) Web2.0にも対応したシームレスなシステムの再構築

(3) 後継者の育成

(4) 今後の埋蔵文化財行政

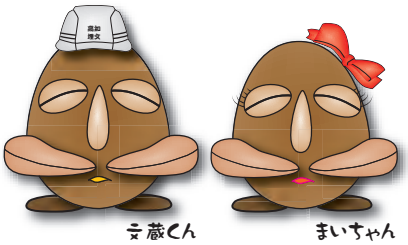


図24　埋文センターのマスコット

茨城県遺跡資料リポジトリ状況報告

筑波大学附属図書館　篠塚富士男

１．はじめに―筑波大学附属図書館における「埋蔵文化財発掘調査資料」の収集

1995 年 11 月　本学歴史・人類学系資料室保管の図書を附属図書館に移管

・内容は考古学発掘資料と地方自治体史約 9,000 冊（多くは考古学発掘資料）で、今後も継続的に図書館に寄贈されることになった

・図書館では考古学発掘資料を「埋蔵文化財発掘調査資料」として別置

・ラベル 1 段目は「210.2＋日本地方区分」（茨城県であれば 210.231）

・ラベル 2 段目は「遺跡の発掘された市区町村名」あるいは「対象地域の地方自治体名」から、著者記号表を用いて決定

2009 年 11 月現在　「埋蔵文化財発掘調査資料」は約 29,000 冊

・このうち茨城県関係のものは約 1,000 冊

・年間増加冊数は約 1,700 冊（最近 5 年分の平均、うち茨城県のものは約 50 冊）

２．今年度の活動状況

2009 年 9 月　遺跡資料リポジトリ用サーバのセットアップ完了

本学考古学コースの教員と打合せ（図書館から協力依頼をした）

10 月　教員から紹介をうけた県内の 3 つの自治体の担当者に連絡をとり、自治体側の状況を確認

11 月　県内各自治体の教育委員会に協力依頼文書を発送

（今後の予定）　○自治体担当者を対象とする遺跡資料リポジトリ説明会を開催

○実際に各自治体と個別交渉し可能なところから登録

３．課題と対処

○著作権処理（許諾）については各自治体によって対応が異なる可能性が高いが、基本的に自治体の意向に従う。

○報告書の電子ファイルの寄贈については、自治体側も未経験のことでもありこれからの検討になるが、冊子体からの電子化は今後の経費負担の問題もあるので、極力電子ファイルを寄贈してもらう方向でお願い・調整する。

遺跡資料リポジトリ構築に向けて：香川県域を回る

香川大学図書館　岩澤尚子

１．プロジェクト参加の経緯

島根大学が代表となって採択されたプロジェクト：平成 20-21 年度国立情報学研究所ＣＳＩ委託事業「遺跡資料リポジトリの構築　：中国 5 県域から広域連携へ」に、平成 21 年度より香川大学も参加することとなった。平成 21 年 2 月 26 日に開催された「遺跡資料リポジトリ・セミナー」に本学の遺跡関連教員と共に参加したことがきっかけとなり、地域貢献の一つとして香川県遺跡資料リポジトリ構築に向けて動き始めた。

２．自治体への説明方針

当初は、遺跡専門担当部署がありそうな自治体への説明から始めようと考えていたが、香川県は県市町合わせて 18 ヶ所で面積的にも狭いことから、全ての自治体への説明を目標とした。また、なるべく訪問して、直接顔を合わせて説明することを目指した。

３．自治体への説明方法

⑴担当者へのコンタクト

学内関連教員の協力を得て、知り合いの自治体担当者を紹介してもらう。それ以外は HP 等で調べて直接文化財担当へ連絡を取り、訪問のアポイントメントを取る。

⑵説明資料

・島根大学作成のパンフレット「遺跡資料リポジトリ～発掘調査報告書の電子化・保存・公開推進のために～」

・目的・機能・お願いしたいことなどを簡単にまとめた本学作成資料（前年度参加館作成資料を参考）

⑶説明内容

・「リポジトリ」とは何か。

・「遺跡資料リポジトリ」とはどのようなものか。

・メリットは何か。

・まずお願いしたいことは発掘調査報告書の提供。

・今後は、印刷する場合の PDF ファイル提供。

・実際の手順。（今年度の資料遡及 PDF 化は予算あり）

・公開に当たっての注意事項。（著作権等）

４．実際に説明に回って

⑴結果

説明期間：平成 21 年 7 月～10 月

18 自治体中、13 自治体訪問＋5 自治体資料郵送

13 自治体協力＋5 自治体該当なし

⑵意見・感想等

・発掘等に携わっている専門の担当者からは、特に歓迎された。

・抄録のないものについて協力を申し出てくれた担当者がいた。

・今後、経費が発生しないか心配する声があった。

・県内担当者間のネットワーク構築を期待する声があった。

・著作権許諾や確認方法に関する取り決め等を文書で定めている例があれば知りたいという要望があった。

・二次利用などに関する注意事項について、利用者に周知する方法を検討してほしい。

・遺跡発掘資料以外の、例えば文化財修理報告書を登録することは可能かとの質問。

５．今後

・サーバ構築作業がほぼ終わったので、今後実際に登録作業を行う予定。

・テスト公開後、自治体担当者への説明会を開催する。（もしくは説明に伺う）

・来年 4 月正式公開を目指す。

６．その他

・図書館から外へ出る機会―しかも地域へ出て説明をするという経験は貴重。

・お互いに漠然と感じていた敷居が低くなった。

・「地域に根ざした大学」を目指している大学にとっても、適切なプロジェクト。

・県内関係者とのネットワーク構築につなげたい。

【事例報告】

宮崎県遺跡資料リポジトリ

2009年11月27日(金)

遺跡資料リポジトリシンポジウム

宮崎大学 寸田 五郎

1

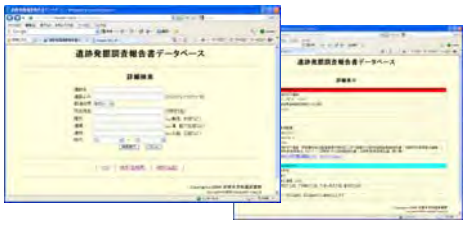
宮崎大学のご紹介

- 学生数：約5,000人
- 教職員：約1,400人
- 4学部（研究科）
- 図書館：本館、医学分館
- 蔵書数：約490,000冊
- 研究室に全国の遺跡資料を10,000冊以上所蔵
- 宮崎県の遺跡資料は約1,000冊？

2

遺跡資料との関わり

- 平成12年から遺跡発掘調査報告書データベースを公開
- 教員の要請によりシステム構築



3

これまでの取り組み

- 平成21年度からプロジェクトに参加
- 6月：宮崎県埋蔵文化財センターと交渉
- 7月：宮崎市埋蔵文化財センターと交渉
- 7月：宮崎県文化財担当者会議で説明
- 8月：サーバを導入
- 9月～：報告書電子化、メタデータ登録
- 10月：試験公開開始
- 12月頃：一般公開開始予定
- 今年度は約400冊を公開予定

4

自治体への説明

- 宮崎県・宮崎市
  - ノートPCに仮想サーバをインストール
  - デモシステムを実演して説明
  - 今後刊行される報告書を含めて許諾を得た
- その他の市町村
  - 文化財担当者会議で説明（約15分）
  - 口頭で説明（デモなし）
  - その後反応なし

5

自治体の反応（好意的）

- Web公開の必要性は認識
- 平成14年度以降の報告書のPDFデータを保存（県埋蔵文化財センター）
- 「より多くの市民に利用してもらいたい」
- 「本当は自分たちでやらないと・・・」
- 「報告書は遺跡の形見」

6

自治体の反応（消極的）

- 電子化の費用は？
- 個人情報が含まれる場合はどうする？
- 仕事が増えるのでは･･･

7

自治体保有PDFの問題点

- テキストが文字化けして全文検索ができない

【原因】フォントの問題？
【対策】画像として印刷後、OCR処理

- ファイルサイズが異常に大きい（1冊で約2GB）

【原因】編集時に余分なデータが蓄積されていた？
【対策】PDFとして印刷して再作成

8

今後の課題

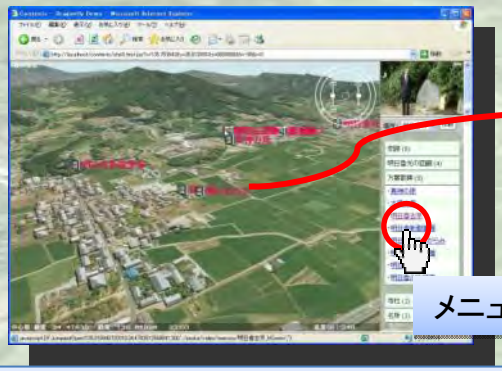
- 新規発行される報告書の入力作業
- 小規模自治体の協力要請
- 遺跡資料に限らず郷土資料等を含めた地域共同リポジトリへ

9

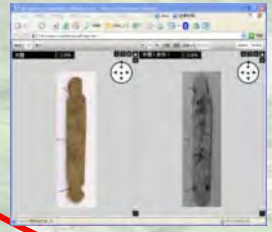
歴史遺産とGIS

コンテンツ株式会社
小野　博

空撮画像・3Dによる遺跡を含む地域地理情報の提示



ブラウザで動作する地域情報用3D閲覧ソフトウェア



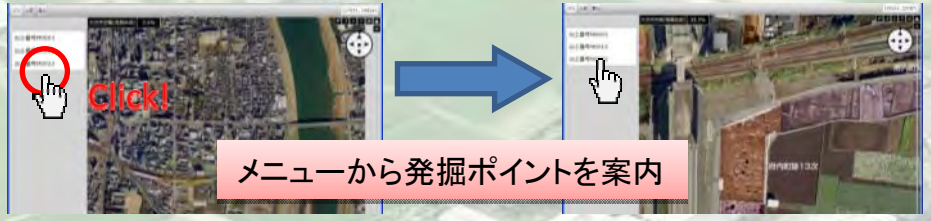
メニューからポイントを案内

発掘の情報や地域の情報を表示

空撮画像を活用した遺跡資料確認

現在から発掘当時へ

発掘前と発掘時の空撮画像を
重ね合わせ、並べなど連動表示し比較



メニューから発掘ポイントを案内

発掘ポイントから発掘成果を表示

パネルディスカッション・全体討議

「遺跡資料リポジトリの普及・拡大のために」

司　　会　：　吉光　紀行（山口大学）
パネリスト：　禰宜田 佳男（文化庁）
　　福永　伸哉（大阪大学）
　　村上　祐子（東北大学）
　　森本　晋　（奈良文化財研究所）
　　赤塚　次郎（愛知県埋蔵文化財センター）
　　福山　栄作（島根大学）

資　料　編

１．行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）

平成１６年１０月２９日
文化庁埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会

２．遺跡資料リポジトリ検索過程

３．遺跡資料リポジトリ検索マニュアル（暫定・簡略版）

行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）

平成１６年１０月２９日

埋蔵文化財発掘調査体制等の
整備充実に関する調査研究委員会

文　化　庁

目　次

はじめに ---------- 1

第１章　調査標準に関する現状と課題 ---------- 2
1　記録保存のための発掘調査 ---------- 3
(1) 調査標準に関するこれまでの経緯と現状
(2) 調査標準についての行政的位置付け
(3) 発掘調査の方法・内容に関する標準についての基本的な考え方
2　保存・活用のための発掘調査 ---------- 5
3　試掘・確認調査 ---------- 6

第２章　記録保存のための発掘調査に関する標準 ---------- 7
1　記録保存のための発掘調査に関する基本的事項 ---------- 7
(1) 発掘調査の性格と内容
(2) 発掘調査に関する基本的事項
(3) 発掘調査の工程と調査体制
(4) 調査手法の開発・改良
2　発掘作業 ---------- 8
(1) 発掘作業の基本方針
(2) 発掘作業の工程とその内容
3　整理等作業 ---------- １２
(1) 整理等作業の基本方針
(2) 整理等作業の工程とその内容
4　発掘調査報告書 ---------- １７
(1) 報告書の意義
(2) 記載事項とその内容
(3) 記載に当たっての留意事項
(4) 体裁
(5) 刊行
(6) 保管・活用

第３章　保存・活用のための発掘調査に関する標準 ---------- ２０
1　保存・活用のための発掘調査に関する基本的事項
2　発掘作業
3　整理等作業
4　発掘調査報告書

４．発掘調査報告書

（１）報告書の意義

記録保存のための発掘調査における報告書は，埋蔵文化財のうち，現状で保存できなかったものに代わって後世に残る記録の中で最も中心となるものであり，埋蔵文化財に代わる公的性格をもった重要な存在である。

したがって，報告書は，発掘作業から整理等作業によって得られた情報を的確に収録したものでなければならないのは当然であるが，それとともに，将来にわたってこれを活用する場合のために理解しやすいものでなければならない。

その作成に際しては，事実及び所見の記述と図面・写真等の資料を体系的・合理的に構成し，利用しやすいものとなるよう細心の注意をもって当たる必要がある。

（２）記載事項とその内容　（別紙３「発掘調査報告書の標準」１参照）

報告書は，記録保存に関して行政的に講じた措置の記録と，発掘作業及び整理等作業を経て得られた学術的な成果の記録からなる。

報告書に掲載する基本的項目は，①経過，②遺跡の位置と環境，③調査の方法と成果，④理化学的分析，⑤総括，⑥報告書抄録等がある。④の理化学的分析は必要な場合に加わるものである。

以下，各項目の記載事項についての要点を述べ，具体的な内容については「別紙３」に記すこととする。

①経過

その発掘調査を必要とするに至った開発事業等と埋蔵文化財保護との調整，調査体制，調査活動，調査後の保護措置等，開発事業との調整から調査完了に至る一連の事実を記述する。（地方公共団体以外の者による調査の報告書にあっては，行政的に講じた措置の記録は，関係した地方公共団体から提供する等の対応が必要である。）

②遺跡の位置と環境

その遺跡の歴史的な意味を把握する上で不可欠の要素であり，調査対象遺跡を含む一定地域の基本的な地形と自然環境，他の遺跡のあり方等について把握できるよう記述する。

③調査の方法と成果

報告書の中核をなす部分であり，通常，最も多くの分量を占める。発掘作業と整理等作業の方法について記述した上で，検出・把握できた遺構の状況，遺構と遺物の関係，遺物全体の出土量・内訳，個々の遺物の要点等の事実を，遺構・遺物の図面や写真を示しながら記述する。調査員が作業途上に思考したことを含め，発掘作業から整理等作業を通して得られたことを的確に記述する。

④理化学的分析

発掘調査の成果をより総合的に理解するために行った年代測定，自然環境，産地同定等に関する分析結果がある場合に記載する。ただ単に分析データを掲載するだけではなく，分析を行った目的や意図を記述し，その成果を「総括」に生かすことが必要である。

⑤総括

「調査の方法と成果」の事実記載だけでは発掘調査の成果全体を的確に理解することができないため，その発掘調査によって把握された遺構・遺物から，遺跡全体の構造や性格，時期的変遷等の客観的事実の整理及びその遺跡が地域の歴史の中でもっている意味，位置付け等を記述する。従来，この項目は「考察」と称されることが多く，その意義付けが明確ではなかったが，その目的・意義を明確に示すために「総括」と呼称するものである。

⑥報告書抄録

発掘調査の基本的情報である調査組織及び調査員，遺跡で得られた成果等を所定の様式の一覧にして巻末等に付するものである。報告書データベースの作成等の利用にも供される。

（３）記載に当たっての留意事項（別紙３「発掘調査報告書の標準」２参照）

報告書に必要な事項が記載されていないものや過剰な情報が未整理のまま掲載されているものがあることから，その作成に当たっては，遺跡を理解する上で必要な遺構や遺物の実測図のうち掲載するものを選択しなければならない。すべての遺構について個々の規模や土層等を表示することや，遺物実測図で示されている製作技法等を再度重複して表にも記載する等のことのないように，報告すべき事項，表現する文章，掲載する資料等について，全般にわたって調査組織全体で綿密な検討を行い，当該遺跡に関する情報を的確かつ簡潔に表すよう努めなければならない。

また，個々の遺構，遺構相互の関係，層位関係，遺構と遺物の関係等について，総体に矛盾のないように整合した説明を行い，その説明と図や写真等の資料との関係が検索しやすく，使いやすいものとなるように，利用する側の立場に立って理解しやすい構成・表現を工夫しなければならない。特に調査面積が大規模で遺構・遺物が膨大に検出されたため報告書に記載すべき事項が多い場合等にあっても，必要な情報を簡潔にまとめるよう努めなければならない。

なお，報告書においては文章による記述が主要な部分を占めるのであるから，客観的事実と調査員の所見を体系的・論理的に表現し，理解しやすい明解な文章表現を心がけなければならない。

（４）体裁

報告書は，現状保存できなかった遺跡の内容を示す唯一の記録刊行物であることから，長期間にわたって保存が可能な印刷方法，製本方法，紙質等を適切に選択する必要がある。ただし，過剰に華美な体裁のものとすることは避けなければならない。

現在の報告書は印刷物が一般的であるが，デジタル技術は急速に進歩し普及しつつあり，それを導入した報告書のあり方についても，今後，検討する必要がある。

（５）刊行

現状保存できなかった遺跡の記録を広く活用できるようにするためには，報告書は印刷物として複数作成され広く配布されて，所要の場所において保管・公開される必要がある。そのことは，行政における情報公開にも資するものである。以上のことから，現在，発掘調査成果の公表は報告書の刊行と配布によって行うのが一般的である。

報告書の刊行は，発掘調査単位で行うのが通常であるが，刊行の形は個々の独立の印刷物で行う必要はない。同じ遺跡で発掘調査が数次にわたる場合にはそれらの報告書を同一の印刷物にまとめて掲載したり，対象面積が狭小で得られた情報が少ない場合には年報等に掲載する等，調査の進行や規模等に応じて適切な方法を選択することも考えられる。

報告書の刊行部数は，後述する報告書の活用の観点から必要と判断される数とする必要がある。

報告書の刊行は，報告書の完成が発掘調査の完了であること，調査成果は可能な限りすみやかに公表する必要があることから，発掘作業終了後おおむね3年以内に行う必要がある。発掘作業が長期にわたる場合，あるいは整理等作業が長期に及ぶ場合等，やむをえない事情により3年以内に刊行できない場合は，概報（報告書の刊行に先立ち，主に遺構に関する事項を中心に調査成果の概要を記した刊行物。後に報告書が刊行されることを前提に刊行するもの。）を刊行したり，調査の概要を調査機関の年報に掲載する等の措置を執ることが必要である。

現状では，すべての発掘調査について報告書が刊行されているわけではなく，概報を刊行しただけで報告書刊行が行われていなかったり，成果の公表がまったく行われていない場合もある。その原因としては，整理等作業や報告書の作成・刊行に要する経費や時間が確保できない等の予算や体制の問題と，概報の刊行で調査成果の公表責任を果たしたとする等調査主体側の意識に起因するものがある。それらについては，埋蔵文化財行政全体の課題として改善を図る必要がある。

（6）保管・活用

報告書は，調査対象遺跡の所在する都道府県及び市町村において保管し活用に供する必要がある。したがって，地方公共団体は，自ら刊行した報告書のほかに管内で行われた発掘調査に係る報告書を将来にわたって確実に保管するとともに，自らの刊行した報告書については，関係の地方公共団体・文化財関係調査機関・図書館・博物館・大学等へ配布し，発掘調査の成果を国民が広く共有し，活用できるような措置を講ずる必要がある。当該報告書に係る遺跡の所在地においては，地域の図書館，博物館，公民館等に重点的に配布し，地域住民が利用しやすいよう配慮することが望ましい。このことは地方公共団体以外の調査組織が行った発掘調査の報告書についても同様であるから，関係地方公共団体は，報告書の入手・保管・配布等の指導その他の措置を執る必要がある。

また，報告書の配布を受けた機関においては，確実に保管し，かつ，利用希望者に公開できるように管理する必要がある。

なお，全国にわたって発掘調査成果の概要や報告書の刊行状況等を把握する手段として，報告書データベースの整備と公開が必要であり，このために，独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所が公開しているデータベースの充実を図る必要がある。

報告書は，発掘調査の結果を客観的に記録したものではあるが，内容は専門的であり，それによって必ずしもすべての国民が調査成果を地域の歴史に結びつけて理解できるものではない。したがって，地方公共団体においては，住民向けのわかりやすいパンフレットや概説書等の普及資料の作成，遺物・関係資料の展示，講演会等を積極的に実施し，埋蔵文化財の価値，発掘調査の意義等に関する理解の向上に努めなければならない。

□遺跡資料リポジトリ検索過程

□検索の流れ

□検索結果例

キーワード検索

□検索結果例

所蔵一覧

遺跡リポジトリシステム
Archaeological Repositories System

検　索

- 報告書検索
- 報告書全文検索
- 遺跡検索

一　覧

- 書名一覧
- 編著者名一覧
- 地域区分一覧
- 資料タイプ一覧
- 所属一覧

リンク

- リンク集

ログイン

- ログイン

Japanese | English
→ トップページへ戻る

所属別一覧

蛇喰遺跡発掘調査報告書
書名：蛇喰遺跡発掘調査報告書 編著者名：片岡詩子 発行機関：玉湯町教育委員会
アクセス件数：88件 ダウンロード件数：90件

向遺跡発掘調査報告書
書名：向遺跡発掘調査報告書 編著者名：稲田奨 発行機関：松江市教育委員会/松江市教育文化振興事業団
アクセス件数：52件 ダウンロード件数：41件

大坪遺跡発掘調査報告書
書名：大坪遺跡発掘調査報告書 編著者名：江川幸子 発行機関：松江市教育委員会/松江市教育文化振興事業団
アクセス件数：71件 ダウンロード件数：95件

雲垣遺跡発掘調査報告書
書名：雲垣遺跡発掘調査報告書 編著者名：廣濱貴子 発行機関：松江市教育委員会/松江市教育文化振興事業団
アクセス件数：73件 ダウンロード件数：47件

柴3遺跡発掘調査概要報告書
書名：柴3遺跡発掘調査概要報告書 編著者名：昌子寛光 発行機関：松江市教育委員会/松江市教育文化振興事業団
アクセス件数：67件 ダウンロード件数：40件

恩部遺跡
書名：恩部遺跡 編著者名：川上昭一 発行機関：松江市教育委員会
アクセス件数：50件 ダウンロード件数：19件

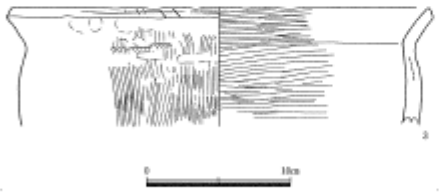
向山古墳群発掘調査報告書
書名：向山古墳群発掘調査報告書 編著者名：金山正樹 瀬古涼子 発行機関：松江市教育委員会
アクセス件数：54件 ダウンロード件数：36件

図版 2

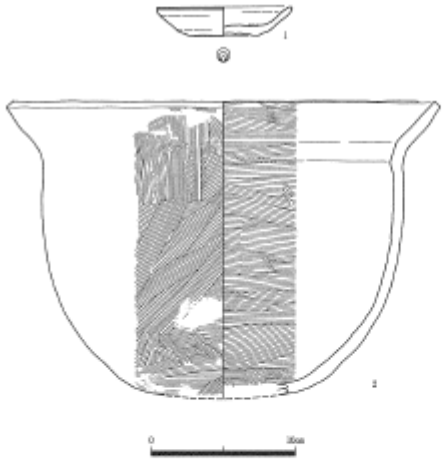
B区　調査前
（南から）

B区　全景
（南から）

第18図　SD-A03出土
遺物実測図



第17図　SD-A02出土遺物実測図



第19図　SD-A04出土遺物実測図

遺物は土師器の杯底部（1）、土師器の甕口縁部（2・3）が出土している。（1）は底部外面に回転糸切痕を有す。（2・3）はともに「く」の字状口縁、（2）は端部を丸く納め、（3）は端部に面を有す。ともに煤、炭化物が付着する。

SD-A03（第16・18図、図版12・21）

A区、中央北西側に位置する。検出面の標高は13.2mである。北東端は先行するSD-A04と合流してSD-A02と接する。南西端はSD-A05と接する。ともに新旧関係は明確ではない。主軸はN-54°-Eにとるが、南東側を中心に緩やかに湾曲する。検出長17.16m、最大幅122cm、深さ57cmを測る。溝内には大きさ30～80cm程度、厚さ8～16cmの扁平な割石を中央に並べ、隙間を20cm弱の小振りな石で充填する。底面までは6～22cmの空間を有する。底面の標高は12.7～12.9mとなり、北東方向に傾斜する。埋土は2～6層に分層でき、黒色系の粘質土を主とする。

遺物は土師器の皿（1）が出土している。全体的に歪で、口径7.8～8.4cm、底径4.2～4.5cm、器高1.9cmを測る。底部外面に回転糸切痕を有す。

SD-A04（第16・19図、図版12・21・22）

A区、中央北西側、SD-A03の南東に位置する。検出面の標高は12.8～13.1mである。北東端、南西端を各々SD-A02、SD-A05と接する。ともに新旧関係は明瞭でない。また、北東側約1/3をSD-A03に切られる。主軸はN-52°-Eにとる。検出長18.68m、最大幅256cm、深さ58cmを測る。底面の標高は

遺跡資料リポジトリ検索マニュアル

（暫定・簡略版）

□ リポジト リ基本検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

□ 報告書全 文検索 ・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

□ Google, Google maps 検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

□ 横断検索 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

□リポジトリ基本検索

1.1.1　利用方法

トップページのメニューから『検索』を選択し使用することができます。

検索には『キーワード検索』、『詳細検索』、『報告書全文検索』の３種類があります。

1.1.2　キーワード検索

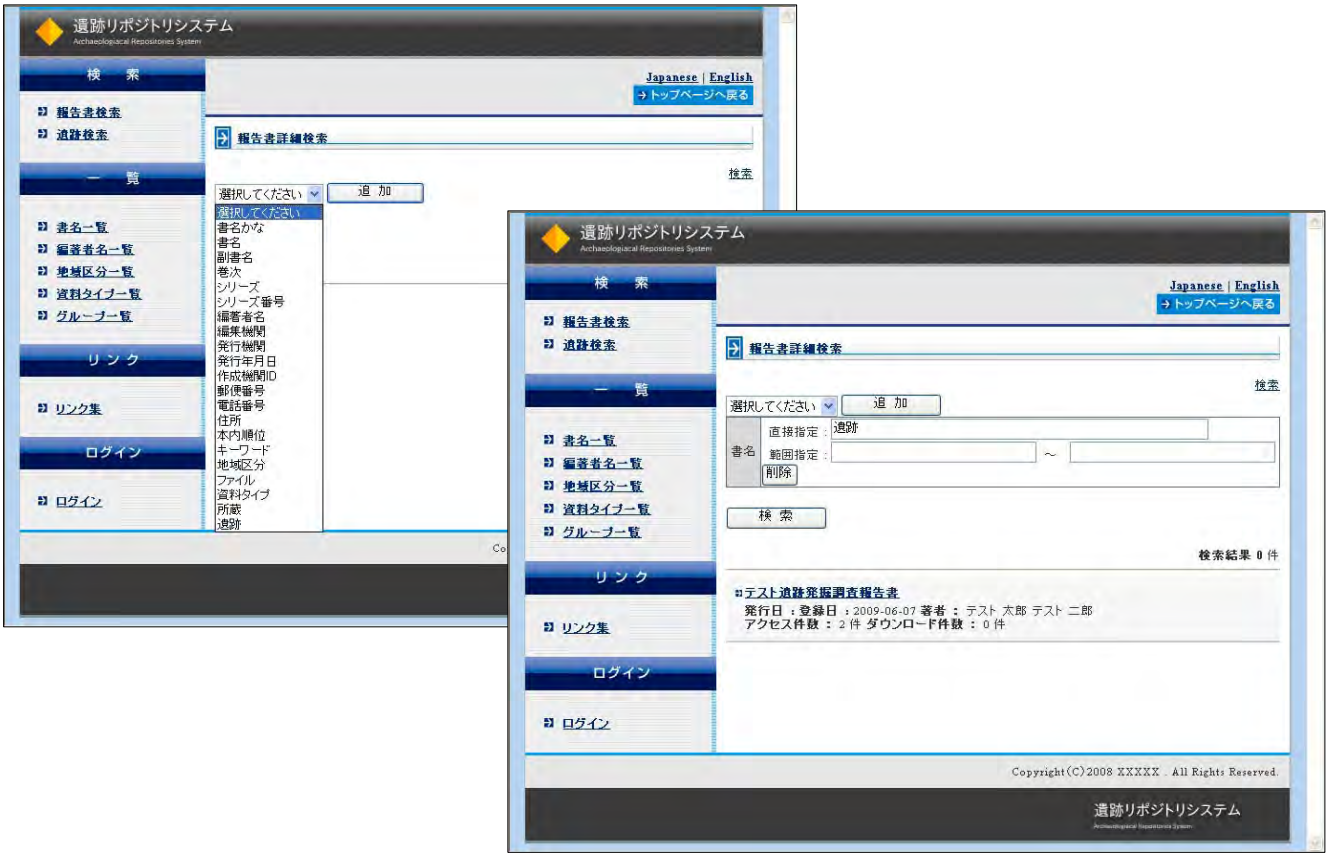
キーワードを指定してキーワードが含まれデータを検索します。
キーワードは論理演算を行うことが可能です。

演算子	内容
空白、OR	どちらかを含む
AND	どちらも含む
NOT	続く語を含まない
*	任意複数文字
?	任意１文字
”で囲う	フレーズ

1.1.3　詳細検索

キーワード検索画面の右上に『詳細検索』をクリックすることで、詳細検索を使用することができます。

詳細検索では、キーワード、タイトル、雑誌名といった、項目を指定して検索語を指定することができます。



※検索内容対象は設定ファイルに依存します。

□ 報告書全文検索

キーワード検索画面の右上に『報告書全文検索』をクリックすることで、報告書 PDF の全文検索を使用することができます。

キーワードを指定してキーワードが含まれデータを検索します。
キーワードは論理演算を行うことが可能です。

演算子	内容
空白、OR	どちらかを含む
AND	どちらも含む
NOT	続く語を含まない
*	任意複数文字
?	任意 1 文字
” で囲う	フレーズ

全文検索の対象は公開されている PDF のみです。

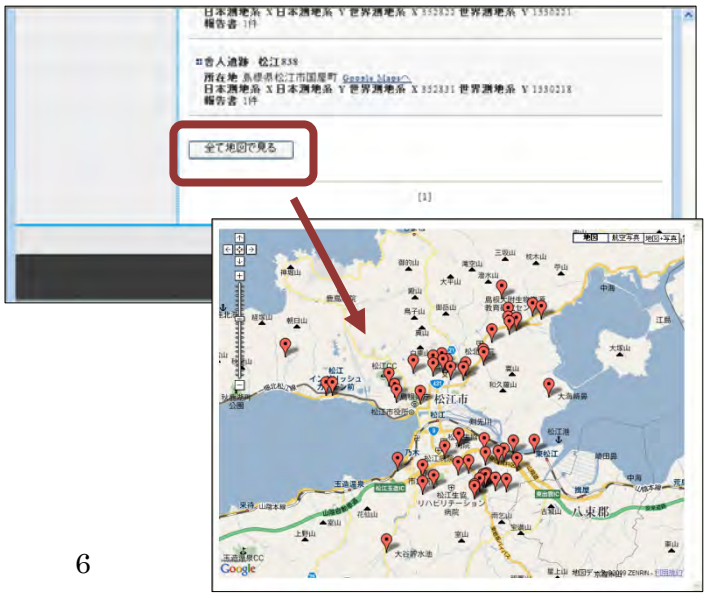
□Google, Googlemap 検索

検索メニューから「遺跡検索」を選択することでリポジトリの遺跡情報をgoogle map から見ることができます。

遺跡検索を選択し、キーワードを入力します。
地理情報が入力されている遺跡データには「googlemaps へ」というリンクが表示されます。リンクをクリックすると、googlemaps へ移動します。

google maps の画面では、アイコンをクリックすると吹き出しに報告書へのリンクが表示されます。

検索結果画面の下にある「全て地図で見る」ボタンをクリックすると表示結果がすべて画面上に表示されます。

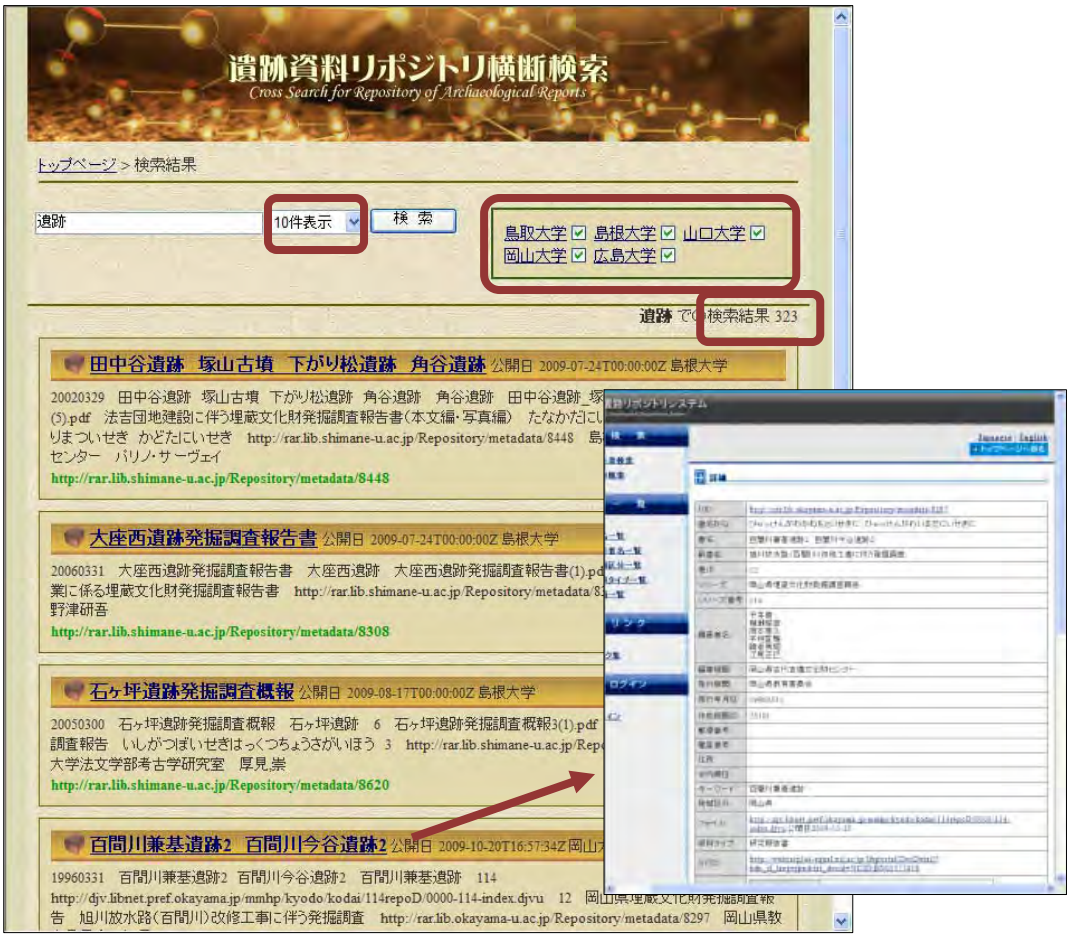


□ 横断検索

http://rarcom.lib.shimane-u.ac.jp/CrossSearch/
へアクセスします。

キーワードを入力して検索ボタンをクリックすることで登録リポジトリへの横断検索を行うことが出来ます。

検索結果ページでは、件数と検索結果が表示され、検索結果の表示件数、検索対象のリポジトリを選択することができます。
検索結果のタイトルをクリックすると各リポジトリの対象データの表示画面へ移動します。



検索結果